

1. 調査報告概要表

作成日 平成 22年 3月25 日

【評価実施概要】

事業所番号	1070400641
法人名	有限会社 アイケアほしの
事業所名	グループホーム まんさく
所在地	群馬県伊勢崎市今泉町2丁目831-1番地 (電話) 0270-20-5355
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成 22年 1月 20日

【情報提供票より】(22 年 1 月 5 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	利用定員数計 9 人 常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 5 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り 平屋建て 階建ての 階 ~ 階部分
------	----------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
または1日当たり				

(4)利用者の概要(1 月 5 日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.5 歳	最低	83 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	伊勢崎佐波医師会病院 ・ 黒羽根医院 ・ 共栄歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「人間としての尊厳を大切に・・・」等、独自の理念を掲げ、管理者と職員は連携を密にしながら、前向きな姿勢でケアの実践に取り組んでいる。職員の言葉かけや対応は穏やかで、利用者が自分のペースでゆったりと過ごされているように見受けられた。食事がより楽しくなるよう、利用者の希望のメニューを取り入れ、調理方法等の工夫をしながら、栄養バランスのとれた食事の提供を心掛けている。清潔保持も大切にしており、希望があれば毎日でも入浴できるような体制を整えている。事業所も地域住民の一員となっており、支え、支えられる関係が構築されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議の中でメンバーからの意見がなかなか出てこないという課題があったが、地域住民メンバーの協力を得て、意見等を出してもらうことにより、家族等からも思いを聴かせてもらえるようになった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については、会議等で職員から意見を聞き取り、管理者が作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催している。事業所からサービスの状況等の報告を行い、出席者からの意見や要望を受け意見交換を行っている。出された意見等については、サービスの質の向上に活かしている。事業所の避難訓練には、区長や地域の女性防火クラブのメンバーも参加している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>隔月で「おたより」を発行しており、利用者の様子や運営推進会議の開催予定、献立表等を記載し、家族等へ報告している。家族等の来訪の際には、話しやすい雰囲気づくりに留意し、苦情や意見等を聴くように努めている。出された意見等は運営推進会議で取り上げ、職員間で検討し、運営に反映させている。苦情相談窓口を文書で明示している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営者・管理者は事業所の隣りに居住しており、町内の役を引き受け、日頃から地域の人達との交流に努めている。地元の夏祭り、踊りの発表会、区の作品展、健康展、福祉プラザのハートフル展等に利用者も参加している。中学校の体験学習、児童クラブの見学を受け入れている。地域の人達が事業所の行事に参加したり、事業所を開放して地域の人達も参加した詩吟の発表会が行われている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人間としての尊厳を大切にして、家庭的で温かな生活を送れる・・・地域の人達にふれあい、生活の中で喜びや楽しみを感じるように支援します」等、地域密着型サービスのあり方を端的に示した、事業所独自の理念を掲げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、申し送りの後に、職員は利用者と共に理念の唱和を行っている。管理者と職員は理念を共有し、日々の生活の中でケアの方向性を確認しながら、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者・管理者は事業所の隣りに居住しており、町内の役を引き受け、日頃から地域の人達との交流に努めている。地元の夏祭り、踊りの発表会、区の作品展、健康展、福祉プラザのハートフル展等に参加している。中学校の体験学習、児童クラブの見学を受け入れている。地域の人達が事業所の行事に参加したり、事業所を開放して地域の人達も参加した詩吟の発表会が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義や目的を職員に伝えている。今回の自己評価は会議等で職員から意見を聞き取り、管理者が作成している。外部評価の結果についても、管理者と職員で話し合い、改善に向け取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催している。事業所からサービスの状況等の報告を行い、出席者からの意見や要望を受け意見交換を行っている。出された意見等についてはサービスの質の向上に活かしている。避難訓練時には、区長や地元の女性防火クラブのメンバーに参加してもらった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は市の職員をしていたこともあり、連携は図られている。管理者が利用者の更新申請代理等で市役所に出向いた際には、担当者と相談や情報交換等を行っており、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	隔月で「おたより」を発行しており、利用者の様子や運営推進会議の開催予定、献立表等を記載し、家族等へ報告している。家族等の来訪時には、利用者の健康状態や暮らしぶり等を伝えている。面会にあまり来られない家族等には、電話で近況報告を行っている。金銭管理の報告は定期的に行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意し、苦情や意見等を聞くように努めている。玄関に投書箱を設置している。苦情・相談窓口を文書で明記している。出された意見等は運営推進会議で取り上げ、職員で検討し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージを防ぐ配慮をし、職員の交代はしていない。職員の離職を防ぐため、運営者・管理者は職員とのコミュニケーションを大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3ヶ月に1回、職場内研修を行っている。認知症基礎研修、実践者研修等に職員が交代で参加している。研修参加者は会議等で報告をし資料は回覧している。全ての職員は、看護師の指導により応急手当等の訓練を定期的に行っており、AEDの講習にも参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、大会や管理者研修、ブロック別研修会等に参加している。地域の同業者と交流する機会を持ちながら、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時に、本人・家族等にホームの雰囲気や様子等を見てもらっている。見学できない場合には、職員が訪問し面談を行う等、本人が安心し納得した上で利用できるよう支援している。入居後も不安にならないよう利用者に寄り添い、家族等の協力を得ながら、徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に生活しながら、風習・洗濯物のたみ方・調理方法・饅頭作り等、利用者から教わることも多い。共に過ごし支えあう関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人の言葉や行動等から、思いや意向の把握に努めているが、一人ひとりの暮らし方の希望等があまり把握されていない。	○	本人がどのように暮らしたいか・何をしたいか、を理解するためのアプローチを丁寧にしたり、家族等からも情報を得るようにして、本人本位の思いや意向の把握の仕方を深める工夫をしていってほしい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等には、日頃のかかわりの中で思いや意向を聴き、介護計画に反映させるようにしている。月1回モニタリングを行い、カンファレンスや朝・夕の申し送り時に職員で話し合い、意見や気づきを反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度と状態の変化に応じて実施している。職員間で話し合い、本人・家族等の意向や状況を確認しながら、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族等の希望や状況に応じて、受診・通院、買物、外食、お墓参り等、一人ひとりの必要な支援に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人・家族等の意向を確認し、希望するかかりつけ医で適切な医療を受けられるよう支援している。職員が受診・通院に同行した場合には、家族に受診時の状況や結果を電話で報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「ターミナルにおける事前確認書」を作成している。本人・家族等に事業所の方針を説明し同意を得ており、方針の統一を図っている。状態の変化に応じて、本人・家族等の意向を確認しながら、かかりつけ医とともに話し合いを密にし、チームとしての支援に取り組んでいる。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尿失禁の際には速やかに対処し、感情を傷つけないようにしている。声かけの時には言葉を選びプライバシーに配慮している。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、一人ひとりのペースを大切に支援している。夜眠れない人には、職員と一緒にお茶を飲み、話をしながら寄り添っている。テレビを見たい人には希望の番組を見てもらおうよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を献立に取り入れている。利用者は力量に応じて、野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、後片付け等を職員と一緒にやっている。昼食会で好きな食べ物を注文したり、おやつ(饅頭・よもぎ団子)作り、ジュース作り、外食等で食事が楽しみなものになるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな日程は決めてあるが、希望があれば毎日でも入浴できる体制ができている。一人ひとりの意向を尊重し、好きな時間に入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や力量に応じて、洗濯物たたみ・掃除・草むしり・花の水遣り、テーブル拭き等役割を持ち、日常的に継続できるよう支援している。散歩・買物・リハビリ体操・合唱・カラオケ・クリスマス会・元旦マラソンの見学・外食・ボランティア(詩吟・フラダンス等)の慰問等で楽しみごと、気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はベランダで日向ぼっこをしたり、近所の散歩に出かけている。お茶菓子やジュースを持参し、ドライブや季節ごとの花見に出かけ楽しんでいる。又、買物やフラワーフェスティバルへの見学、地域行事への参加等、日常的に外出支援が行われ気分転換が図られている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員は、鍵をかけることへの弊害を理解しており、職員の見守りの中で安全面に配慮しながら、日中玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、非常時の訓練を実施している。1回は消防署の協力を得て、初期消火・通報訓練・避難誘導訓練を行っている。訓練には区長・地域の女性防火クラブ・地域の人達にも参加してもらった。又、近所の人達に災害時の協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分の摂取状況を記録し、職員は情報を共有しながら支援している。利用者の希望を取り入れながら献立を作成している。新鮮で安全な食材を使用し、栄養バランスの取れた食事の提供を心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にはテーブル、椅子、テレビ、観葉植物が置かれている。食堂から続くベランダの前に季節の花を植え、鑑賞できるよう工夫している。廊下には椅子を置き、壁には職員や利用者の紹介、写真、手作りの作品が飾られている。庭や建物周辺には四季の移ろいを感じられる花木や果樹が植えられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇・位牌・テーブル・整理箆箆・籐の椅子・時計・衣装ケース・鏡・観葉植物・自分の作品等が持ち込まれており、本人が安心して過ごせる場所となっているように見受けられた。		